

大型研究計画に対する 看護学分野の取り組みと課題

日本学術会議マスタープランへのチャレンジを通して

2019年

12月1日 日 16:50-18:20

第1会場(石川県立音楽堂2Fコンサートホール)

シンポジスト

* **小松浩子** (一般社団法人日本看護系学会協議会会長、日本学術会議会員)

「日本学術会議のマスタープランと大型研究」

* **真田弘美** (公益社団法人日本看護科学学会理事長、東京大学大学院教授)

「大型研究費に挑戦する」

指定討論者

* **吉永尚紀** (宮崎大学テニユアトラック推進機構講師)

「若手として、より大型の研究へ踏み出すために」

司会

* **片田範子** (一般社団法人日本看護系学会協議会理事、日本学術会議会員)

日本学術会議ではその役割の一つとして日本における学術を推進し、社会への貢献を牽引する研究の方向性を科学者委員会が検討し、それに沿ったマスタープランを募集し、選定しています。直接的に研究費が配分される審査ではなく、それが現代の社会ニーズにそったものか、どのような研究がなされることが推奨されるのかなどが検討されます。日本学術会議は人文・社会科学、生命科学、理学・工学の3部から構成されています。このような状態の中で、第二部の健康・生活科学委員会が日本看護系学会協議会や他分野の学協会との協力のもと「Society 5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」として大型研究計画を提案しました。この結果はまだ出ていませんが、学術の動向に影響を与える方略として学術会議が担う大型研究からロードマップを時代に即して提案し公表することの意味とその概略をレビューし、看護界から提案する意味、もたらされる影響などを皆様と検討し、今後の課題や必要な取り組みを考える機会としたいと思います。